キャラクター名
風守 琥羽 <かざもり こう>

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ハヌマーン	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	男
覚醒	渇望	衝動	恐怖	初期侵食率	34 %
出自	母親不在	経験	反発	邂逅	刀の声

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	1	0			3
感覚	2	0	0			2
精神	2	0	0			2
社会	2	0	0			2

HP	28
行動値	6
(非装備時)	6
戦闘移動	11
全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
薄緑	白兵	3r-1	3	11		全滅：対象敵単体に11点。滅殺：対象敵単体に11点。即死：滅殺が成功した場合、戦闘不能。防御貫通：防御値を無視する。滅殺：HPを無視する。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
破邪顕正(スレイヤー)	P	N		
父親	P 尊敬	N 劣等感		
薄緑	P 連帯感	N 恐怖		
九頭龍響	P 友情	N 不安		
複家 詩禄	P 有為	N 不信感		
玖珂 玄景	P 誠意	N 脅威		
宇城 紀梨	P 庇護	N 無関心		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
一閃	1	2	ﾒｼﾞｬｰ	武器	-	対決	-	
効果：	全力移動後に白兵攻撃を行う。離脱不可。							
居合い	3	3	ﾒｼﾞｬｰ/ﾘｱｸｼｮﾝ	-	-	-	-	
効果：	判定達成値に+LV×2。ラウンド1回。							
援護の風	7	2	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	-	
効果：	判定ダイスを+LV。ラウンド1回。							
ウィンドブレス	5	2	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	ﾘﾐｯﾄ	
効果：	判定達成値を+LV×3。援護の風と同時使用。							
限界突破	1	3	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	至近	自身	自動	80↑	
効果：	1ラウンド1回のエフェクトを2回使用できるようになる。シナリオLV回。							
マシラのごとく	5	5	ﾒｼﾞｬｰ	-	単体	対決	80↑	
効果：	攻撃力+LV×10。ダイス-5。シナリオ1回。							
コンセントレイト	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	-	-	
効果：	いつもの シンドローム：ハヌマーン							
彼方からの声	★							
効果：	電話（物理）							
真偽感知	★							
効果：	心理学（物理）							
無音の空間	★							
効果：	隠れ身（物理）							
効果：								
効果：								
効果：								

高校生。あんまり表情に出さないタイプ。
母は幼い頃に他界しているが、その理由は知らされていない。
父は剣道の師範代で、琥羽も父の剣術を幼い頃から習っていた。一度も勝てたことはない。
父には「男は弱いものを守ってやらなければいけない存在だ」と聞かされ育てられている。

ＰＣ①
ロイス：九頭龍響　推奨感情　Ｐ：好奇心／Ｎ：隔意
カヴァー／ワークス：高校生／高校生
Ｄロイス：破邪顕正（シナリオ専用Ｄロイス）
　キミは京都市内の高校に通う普通の高校生だ。
今年に入ってから転校してきたどこかミステリアスなクラスメイト、九頭龍響から週末買い物に付き合ってほしいと頼まれたのが、その日がいつもと少しだけ違った日常の光景だった……これが非日常への扉を叩くことになるとは夢にも思っていなかった。
　夕日に紅葉の舞い散る中、鮮血の赤に染まった世界でキミは一振りの刃に手を延ばす。

No.CL01　破邪顕正(スレイヤー)
　その日、一振りの刀を掴んだ。そこから世界は大きく一変した。
　この世の条理から外れた異形の怪物たちと戦い続ける……それが大切なモノを護る力を手にするための条件であり、刀との契約だった。
　後戻りはできない。それは不可逆で、契約の終了は己自身の命が尽きるときだ。
　後悔がないと言えば嘘になるかもしれない。けれど……それは決して間違いじゃなかったのだと思える。
　戦いの運命に縛られようとも――それは大切なモノを護るための証明なのだから。

・解説